等保管證未經正式讓與手續當 以符定約 以符定約 以符定約 以符定約 以符定的 以表在京病故檢查 以符定約 廈門 魯案己 頭 停有

英艦示威强築碼

曲

英美兩

國調

夜遄回貝爾法斯 與英相喬治晤談一句鐘 個數二十五日間愛 爾蘭談判又居危急之際 理克蘭于今晨曾

省

要 閩

吉

十百十百十

民市行發銀城本

金標足率吉現現 大大金大 頁金金洋洋票洋

五四四八七八九 千千千十十十 百六百八吊七九 二百七吊一届吊 七

0

月二十)金楊楊楊王)柱翠翠韻石)芬芬琴香柱

問提(三)荒全 問曹(疑)草家 施放(計)坡福

(晚)

極為不悅各報咸謂法主張海軍 于法國在太平洋會議之要求 勢力應與義國成三與二之此 無馬十二月二十五日電 義國政界對 適志在操縱地中海 愛爾蘭內衛 ■謂志在操縱地中海 叉熾 不辯自明云

國詆法國軍

▲英愛談判將中止

厦人大憤 略擬以 日午後一時五十一分北 紀 武力收回

助艦之增加發見若干修正之 之主張 務須發見一致之點以互讓之精神便於此次 會議己努力於謀成立協定則美日間 撤回修 正案之消息因未接公報雖尚縣一線 餘地而東京電話亦謂日本政府方面對於 不確之希望然日本既承認美國提案之原則 艦之修正則日本得以承認之 數當較美國提案略多而 尚有問題耳但既已撤回主力 等者究能承認至若何程度則 而成立之也質言之其結果 之最少限度當能以互相 已

電 提前往解 一利日民 决此時局 账本公 输公司

暇聯

脫曾 離經

關係特略

此盡

通綿薄

現以俗事糾

阊

國金權代表 二十日 曾非公式會 日本代表此次提出海軍十對 解决有多大效果關於日本方 面似將撤回主力艦之比例增 商其結果于海軍裁減問題之 七修正案英美兩國均表示反 現據華盛頓二十一日特電調英美日三 日撤回海軍 「接即要求干對七之比例」而於補 惟補助艦之 恒之某方面傳出未 備進行

原已 機定關稅 增收百分之三 與否為轉移 擔保應付緊急政費即將提出閣議 雷局 籌 時 開源 與維持 方法 財 政總長 高 凌 府以此次金融恐慌雖無平息而不為根本 决之方中國財政實難 以壽其後因與財 整理財政辦法 聞與外交團非正式之接

與手續當然不生效力用特聲明作廢另行補換 是至三百號止此二百張不知遺在何處此項股票保管證向歸業商代表文祿保管文君於本年 景保管證向歸業商代表文祿保管文君於本年 景保管證向歸業商代表文祿保管文君於本年 之金融又在恐慌時代一旦蘇出醉意或先行 告假勢必中權 乏人主持百政因之以俱廢故 意但以華會甫在開會中而含 得先行開戰並派人與西南開誠 前之急(二)對付南方問題擬派院 稅問題及發行內國鹽 概念商請延期一面 討議加 政會議清,厘內外債數目 以便分別 肝院方面之某要人指探查一切健云 的有關將 由王農長出而 組偶之事 昨有 某某等部將聯帶下台之說概 接 洽 勿以內風未平而胎外人口實(三) **贊**直魯豫聯軍入湘維持原狀 不 期度此年關然後再定行止 說據門司法董康 將改任修訂 **屬推測之辭** 云叉聞問員中迭次請辭 共現在計畫已與總統商定三策(一)召 司法未到任以前以大長代理陸長葵成 看已有数人故 最近又盛傳內閣局部改組之 决以 傳 增湘 繼任 此種消息皆從接近中 消息較大馬鄉雲運動長甘甚力有將與 動如再堅解即予以威字將軍 律總裁即以赴美代表王龍惠 調任 第一師所遺陸長有擬將雁行 准 對調說教長范源溫如不到任 總理復萌退志一節連日外問題有喧 **三行成政 擬將府院各部局之顧問諮議** 發十月以後之各文職薪俸的分特簡薦委 員酌 量裁減並擬將十月以前之欠薪一律 放價票若干藉以減輕改費現己積極 債票 有引去之 徵海關 兼領 辦云云又聞 之名要人開會集職又聞 一所祭 使定有關倪即通道 激集各省及 進行是會之方法 與研究之計畫二 財政會議研究維持辦法問 論切實辦法己於前晚拍出一通 平洋會議共管中國財 致素亂無由整頓 擬定將各省所有 財政向未將地方中央 鹽署鄉辦進行高運兩民正着 長已於日前 具呈府院請 國內國外俄默實行清理以便聯頭閉言問題 算每超預算此後實依固定預算開支(四) 除擬定召集財政會 並開該冗文義含有政府實行辦法各省 厲行裁兵城裁軍費以

連擬召集

孫軍 自織情

电分致 各

政之議

又聞該電係以國務院名義拍去云又中央召 諒解苦衷如再無確實 府只好全體引咎辭退之語意 宣亦均派員列席 附其細則日內擬定 關監督煙酒公賣局長崇文門 政應長鹽運使權運局各局長國銀行總裁幣制局總裁各省財 國銀行總裁幣制局總裁各省 總大長鹽務署長稅務處督辦 監督各巡閱使督軍省長特派 煙酒事務署督辦審計院長中 員人數機問以財政交通 能希聯曹汝霖陸宗與李士偉 王克敏 員中央特派員及梁士部、朱啓針 長民趙從蕃朱寶仁鄭洪年 問事照吳簽孫郭則獨吳廷燮潘復鈕 財政會議已籌辦進行問會 各都統特派員京兆尹特派 人云至各部院遇 有涉及主管事 梁路超林 農商各部 张肇遠 等 辦法政

質成者識聞 日公益 政一則則財部當局與司員 以日貸來華較各國為多 四(二)决 們己能令不 **承稅收切實** 王於整頓財 有表示不 自兩行發生問題外人提議以後鹽 爾其積極催促变行近 正向各方接治先從津 一律恢復張巡閱唯亦有電致王 融前途之樂觀

門俾免紛亂 財政界有關 八制清以 核示違 **于商議 口交諭財部** 議召集 避去太 之天津字樣中國銀行鈔票自曾完全不生間 完全恢復兌現即自十二月一 會議業公會銀行公會公同檢查定 今明宣布 定不排作別用 每星期派人檢查又自 提出抗議現决定仍存中國銀行經贈署 日內進備現金業已就絡並請總商 據天津電話中最確報告天津中國銀行 依樣辦理不久即可宣布云 題中行便可算一如原狀至交通銀行亦 日起實行該行一縣恢復則流通於京律 關除內預提百萬應付近繼軍的以後關於以 際署現仍未允所請云 鹽條為抵押之借款必須從外國銀團告借惟 南北戰與時局變化

定會議之代表要求直軍開出 現大批學軍其勢更為窮麼多預保 項伸金位置問氏己奉孫氏密令與 軍使周紫麟翰致意西南方而曲為說 岳州大遭擯斥不得已托西南勞 部曲之紛擾近日衡永一帶又發 敗後外困於直事之壓境內追於 西南政府北伐一事暗幕中李烈鈞陳炯明唐 前兵有抵湘潭之信云 陳炯明之 白必言聽計從唯命是遵矣 關國雄 廢除與直軍所結協約 (五)須派專軍一部 (二一)任周瑟麟為湘省長。四)趙頻申明 趙訂立數事(一)解散附北之為豪 成一種合意舉動和省增恒傷援鄂失 表同情陳炯明丁此百忙而毅然回籍祭 以時機未至伍延芳亦不與孫氏 概義等雖各有 思想而表而上則異口同聲形 者本自不同此次北伐陳氏之 意尚 政策本係穩健一派與孫 之猛于進取 一旅(一一) 南軍出動趙須督湘軍反政岳州 祖電知駐在韶平之孫氏謂須運旬日當可共 凯川將領自分兵 三路反政宜昌 川軍連日反攻之情形極為劇烈茲 據漢口快 統出巫 甚烈當縣孫 (4 芳) 趙榮華盧金山 調風雲遠急日前 藍文扇反 攻直軍防線 後現在各將領 又在巫山 會議决 支通但無辛楊森分五路反攻 惟保 復開會議决定由劉湘喻培棣唐 日不能息止云叉中央現已連接鄂 两各路統重大戰事惟川軍一日不驅出鄂境 則戰事一接濟不日即可運到故日內川鄂雨 軍未發生 退守原防機關川軍所需械彈現由專軍 定依前定計畫進攻故連日施南方面 軍並云劉湘已與但然辛 蠲除意見 受孫文運動並有 粤省接濟餉械預備響應聯兵長官相繼來電報告四川各路統 兵長官均 水曾赤刺下 川軍以 子彈告罄遂 天池河激戰一日 雙方死傷甚多河 部開到協 力猛攻在 施南所屬之 除抵禦後又有唐式選湯子農兩 川軍反攻鄂西警耗 大沙坪等處在宜

第一切此時百凡由公主持云云 盧 永祥自 将會 僕僕風塵時而滬時而浙時而寧以作居 問關 解之人今後長江方面或為解决國是之 之上揮會議與張紹會之度山會議異途同歸 **段関係後所有趨向南方之意此**次 實處于熊溝縣浪之中故與陳炯明結 思想同一奏閩省李厚基與專境毗連 又漸與某使所抱解决國是之 氏招待倍為 優壓由此盧永祥 曾挾一解决國是之志越 張之至浙唐 若何關于息事結和之條件 爲 之一原因 烟 經以為自存 之策此亦與陳得接近 等的調和因此陳盧李等途有 極欲休兵息民與北庭爲對 解之人今後長江方面或爲解决國是之 東氏衷心既已不同情於孫之所

據某都統前日報告某最高機關的 保 定 之頗爲實許云 北犯則取正常之防衛某當局明 方則取和平之方針惟西南果積極 而之意見業已融洽一致至對於南 會商之總結果吳子玉與奉天方 保定會商之總結果

山中侧路町文建始利 八師與十五師第五说成族及 十八混成族均山施南一帶五六兩關仍駐荆 沙長陽等處第一時為之染赤云叉閉孫傳芳 對於防寒之布一時為之染赤云叉閉孫傳芳 對於防寒之布 各有死亡共傷兵士三千餘人河水 江元江利等艦分駐江面以協陸防云 他機關銷陸路防務己甚周密 至於江防亦調散布於五峰建始間所有妥塞 地點均安有大 總統擬獨辦大學

並有同野北方面 進兵之計畫其文章 北方而之主力軍為鄧錫展所都之 方的定義 川軍攻取 南沱溪野山間場趙亦派代表演 某入川等商進攻方法曼前劉湘特派代表陳廷燦(名謀)赴湘聯格趙 事會議律一致行動云又聞某方面昨得宜 發以期與 但歷辛之第一軍會合 野亚 市由川北聯絡陝軍向鄂北進 四十管及其所華之一混成旅 問那 昌軍事採報稱川軍反攻近日愈遊 派有代表在巫山與但接洽就近多預巫山軍 天池河與潘旅 接仗三日雙方 江前途極為危急聞 孫傅芳軍 除己赶 到 道卡進窺宜昌鄂西鄉民紛紛逃往下 由野山區取長陽一曲石門隔逼二 三面進攻一由石龍嶺 取五峰一 川軍均由平著 關一 湘軍即進攻公石 故日本 鄂刻正互相聯絡信 使往還 烈而湘軍方面亦有躍躍欲試之 川湘兩軍 業己决定 同時改 **廖津市一帶又新聞** 軍亦調集魯縣平所部屯駐於 院防云云双额 (巴東上)簡節前 近分

將歷年官襄**近餘獨立捐建大** 流淪毅然有重為振輿之意擬 之意擬 若賦詩為生活中 之一部分由是而博得法間 徐總統為亡清選 老深饒詞章氣理政之餘品 包印四庫全書之朱 啓鈴氏西方物質文明 第一遭國人强之,者謂得黃老眞仰良為確論 西文學博士榮典為中國元首博士之破題兄 學以存國粹其籌辦員有 學一所尚事精敲中國舊有文 ▲研究中國養文庫

唐金楊楊楊小 榮桂聚翠韻林 勝芬芬琴香子 白 (應)送斬 蛇神托(花)銀黃 傳 (山)米袍 (丹)回

小花劉唐金金小 素鳳保永秀保秃 梅莲成長雲玉紅

玉)(潮)牧南遊四堂)(金)虎天西水春)(鼎)關門湖關

制)閣掛殺 美)王古 案 樂畫寺

宗昌為師長第二

誤偷求 蓮蒙名 春

4

吊吊吊吊吊十吊 率現現現® 小金鈔大長 洋票票洋春

北十十八八市 二十十八八市 二十十八八市 五元五

●(園)(茶

(演)(早) 寗張廬(小)(德小魁(銀)(順樓芳(花)(

(取唐) 經價 (演)

蔣盧張小(小 保魁小月(銀 印芳樓樵花)

車滑挑(蜂)

◎(閩)(

(演)(早) (陳(尚尚)邢 (瑞(桂桂)魁) (珊(雲財)太)

元 狀 得 女

(演)。 劉蓋于小花(保月德素鳳(成樵祿梅蓮((三)(國)(誌)

吉林河南街有宜號謹取

省

闧

赤塔之大連會議希望 東 耍

視日本撤兵問題之能否解决至赤塔政府之希望則有下列各項 大連會議之赤塔代表卜留黑爾氏最近語 外國人生命財產之安全執此之故吾人際望日軍一日本之撤兵為吾人所最重視者蓋吾人於日本軍撤退之後 人云大 連會議之能有順遼進行與否全 一方能保障

退也 外國人之投資 二遠東共和國業已確立其政權今為免於經濟狀態之不安定起見切願

狀故該軍隊不久即當退出蒙古 四海多殿政府為無責任之財團所指揮者故該政府。所締結之一切契約 琴起見出兵蒙古乃為事實今翁琴已成以死刑庫倫己將回復原三赤塔政府之軍除並未佔領庫倫惟勞農俄國軍為討伐翁

五尼港事件發生以後赤塔政府與勞農政府 任之軍隊擊斃其司命之事赤塔當然無負責任之理關於此層 於赤塔即 調查會從事調查至 杜爾比大一派之巴爾的 遜以無責 事項赤塔政府、决不承認 地帶引

倡集合自北根以至遠東之名東外市用金屬 赤塔政府於該 會議中僅 六在伊爾庫次克之亞細亞國民聯合會係勞農 政府之所 其方針比外共東京東京東る報告云云 會議中僅述

長二派編蒙溫軍第一師以張 編炮兵獨立旅 Q 裕其祥為旅 獨立族以諸其群爲族長(二)器 一師(二)添編騎兵 以許蘭洲 陸夢熊氏到吉辦理

原來之綠營巡防營以及腐敗 備以及餉頂等事曾由經略自行設 為師長關於軍械之分配被服之製 及至路段權夥擬投舊虧未即不允始知被至半途與胡匪相過櫃夥疑係陸軍隨之而 號德原恒日前遺其機夥掛執事家辦事 舒陽縣周法特哈

法並經歷明 自新車

編成後所

之蒙軍分別裁汰改編表面

賣期豆

央兹探得其內容大要於後一一奉軍第 另以張學良所部之衛隊旅改二十八師改編爲熱河第一師 張使最近所决定之奉軍擴充計畫已能陳中 洪 夾鼓 吹恐其中或有他故是 以此事智為 使主張建築據吉督孫烈臣意見則以為日人 天實山至圖們江間之輕便鐵路前此骨由張

往延吉查勘一切其合同不宜現交部亦已委派陳某等三八春興工已電交部商酌施工 量茲開此次復由 張使主張 决定明 部中已派吉會 一切其合同不久 淺官鹽分倉鄉理不善銷路不暢種 長同中各事尚未暇清 閻廷瑞於十一月二十四號由京回 **閻局長赴哈** 宜即於二十 △長 。春▼ 切以資整頓云 古黑権運局局 **理聞囚哈爾**

以鮑德山所部之第六混成族改編

即可簽印

編爲第二十八師(二)暫編第

-

一師改編爲察哈爾第

駒日鎗 **建**陽縣富:戶吳榮

南楊後該營兵丁先開到者一連繼到一排十振時筋一旅旅馬將駐並磐石之砲兵營調駐 一月二十八號又到一排帶砲兩段並聞三二 而中日雜處交渉類仍若無重兵駐防難資鎮 督軍公 署以長春地

十餘吊初不料及產 領不佳及新豆上市日柳 之鄉農以賠累已甚無不叫苦連天云 是限划己漲至一百餘吊期限己至一般。批豆

到本街圖民學校調査一切凡關於校 學務委員李和卿前在東京地方辦學有年對 委員查與 一註册賞

將學生課程分門考試判定分數凡在"六十分 副分明茲將調查情形錄之於左 名额一百一十條名該委員於到校日 ▲考試學生 本街學校分甲乙內三班學生

獎者十六名乙班領獎者十三名丙班領獎者 上者給下等獎品於十八日張榜校門甲班領 獎品在六十 事矣

委員演脫學生如何進步職較員如何進行約逐風鼓號喧闘一時旁觀者如堵送至街外該 排除出校門諸生均爭青制服非常齊整旗影 十三名各領量一錠檢字仿影一本鉛筆石筆文簿算備簿圖畫簿各一本領下等獎品者二 八名查三班共得獎者三十七名云 辦理告竣於十九日上午十鍾職教員率諸生 中等獎品者亦七名各領鉛筆水筆各一支作個水筆兩支鉛筆一支石筆四支橡皮兩塊領 ▲事效言旋 事竣言旋 迨至十八日該員將一切事宜一支所領之物品約值吉錢五百餘吊云 民校領上等獎者共七名各

護路軍換防 **原是以近日各車站軍隊**

右其除羅糧依水漲價推厭 之區所有難精市價較他咸普 查小米每斗一百五六十吊不 各銀行錢局成立以後大宗出 (甲)本埠銀行之收買強拉林 每斗一百四十餘吊元二每斗 三分之一之廉值萧索以無人 十五日以後本埠食糧價格日 暴滠原因有二 地而向為產糧 本旨暴凡屯鎮 **收買放也本年** 通的計算殆行 等包米高粱米 見騰貴最近調 帕其開始營業 此而備断甲疑 一價飲高在

傷大發慈悲忡製棉衣二百套 衣無褐之貧民不無號寒之可憫刁氏目擊心議員刁子明慨於時值冬令雪害冰天一般無 者而施之刁君此舉其慈善洵 火警何多 擇貧民之最高 幾又四道街某 處亦云幸矣 本埠省議會

紛紛接換頗形 **心趣司令部殺長**

型對於應盡職實

保治安業經前次會議議决率吉黑三省已從黑熱察級六省區舉行聯防以即漸清阻息而 事實行業誌本報茲聞熱察級三特別區聯防 切手續及條例即參照率吉暴三省聯防辦 憲兵協助多防 熱察級將實行聯防

兵抽查各熱鬧塢以防匪人混跡云 封之前特擬明察合各女校均斜女散子軍一 軍我奉行女子學校尚付餘如未必有放步自

資核實茲接該處來函 晚十一鐘起節東下所 整頓路務起見擬親卦 書及科員張紀芳等數 師公會選舉 帶隨員有秘 帶隨員 各站視 各站視查以 人云

氏有聯任希望曹此為寇律師 氏現因一年任期己滿該律師 多者為曹律師栩其次為謝律 十八日午前十二鐘假縣署對 律師公會第一屆之會長為設 師紹賢大約謝 **香成謝 紹賢雨** 角曹律師事務 等於十一月二 屆會長得票最

委任金樹容為該公司調查員 政聯另委安人以專責任茲。由榮財政應長己 可以調查一席責任茶重不宜崩懸特轉棄財 託公司實 来調查員王某因有他就解 差該公 昨日己來哈接

某家住戶不慎 肆虐致兆燎原 道街某商號亦 又委蘇雅彬接充矣 使署會議誌要

分誌如下(一)拳軍南征後防務及 块藉資進行日前特召集王代省長 大糖資進行日前特召集王代省長 以次要人會議其要自計分四項或人称審資進行日前特召集主代省長用題紛至會來端賴隨時會議解 之常年經費其他關於省城防務亦 行步驟(四)擴充吳工廠航空處 鞏問信用辦法(三)興接濟軍餉問題(二)本 略有討論云 信用辦法(三)典辦煤鐵礦進軍餉問題(二)本省各銀行號 後

君。三。於盗日 於盗日 家 之 日 以 有 何。 日。蒙 不。 賞。代拔眼 盗得書 | 駭且詫再四| 不可以

東路之侧交通稱爲便利據最近可靠消息雙販運中東路之貨車近以暢行無阻雙城獺於 城與長春糧行等即在雙城裝車直赴大連其 一倍此雜糧暴機之原因一(乙)外緣入境之以千五百吊小米之現行乃以私帖收買利增 **間毫無所阻以故糧業中人來拉採買日日有**

刘正擬盯會章以便呈諸當局立案云

△黑龍江▼

發起正俗崇儉會己**期聯合會經答界之贊成** 春子如李芳春與工會董事王香平劉錫五等

于弟均以新樣之網般為常服形式亦各出奇 則千奇百怪衣服上則露肘下則露膝而當家

離稱二人四百萬吊准順版氏現無處湊默該 堂張雨三家鄉去人票老五老九二人,於日前 随後尾迫云 擊散胡匪 一小時該與受傷數名往西灣透陸軍

云

現隨免券現已派王良獨前赴越埠實行調查業起見擬在海緣戲散立分於司以便發行免

一價格以期間法統一茲開該公司為發展替 分公司發行現大洋腦免勞與中交大洋票同信公司現在頗稱發達各省及各大商 埠均有

廣信概在處設分公司

差當縣金所長即調王敬忱·接克遺峽於日前敬忱到差十條日該所第五區繚永年隊長鮮敬忱到差十條日該所第五區繚永年隊長鮮 股員易人 余

萬金壽汝餘三 日足矣子乃改。 却並擴此子為勒贖地 索萬金 子乃改書萬三 干。 不急而 爲。 我o盗 顺o詢 飯o之。 費o日• 四傷。今探為。 竟復書

教法地理教科 新法理科 新法商業教科書 ▲高等小學校用 另印新法教科書標本 参数教 教授 自習 各六册 各六册

各六册

各六冊 各六册 一四各甲四各各外各四各十乙八八首八八 州 冊面編册 册 册册 # 册 # 册

为之子曰此間樂不願歸矣盗執 子死於盜己屬奇聞而其子亦視賊 子死於盜己屬奇聞而其子亦視賊 等戀戀不去不尤奇之又 新法教科書廳出全了 ▲全書內容戲處新額 ▲全國小學校適用的新課本

▲快快採用新法教科能

新法國文教料 新法國語教科 新法故事讀本 新法會話讀本 新法修身挂圖 新法修身教科 新法算術教科 △國民學校用書 教授集 教授案

時 P

商務印書館發行

己●戰●郊 蜀湘本極殷富省分自入民國以 可概見吳子玉之軍略發表後歸重於固守主義野之富歸為平地蓋己十室十空以此推論則長野之富歸為平地蓋己十室十空以此推論則長 也。情 所希望前途者 一 此之故戰事延 北相持之遺禍 延長渺無了 日安屬但能早日解决即日日行見瘡痍之民將無機 兵燹巨室 小常再行艦では、一点化為級などのでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは、一点のでは 於政府固為得 民o 噍。 生· 類o 此●受●灰○

正俗崇儉會





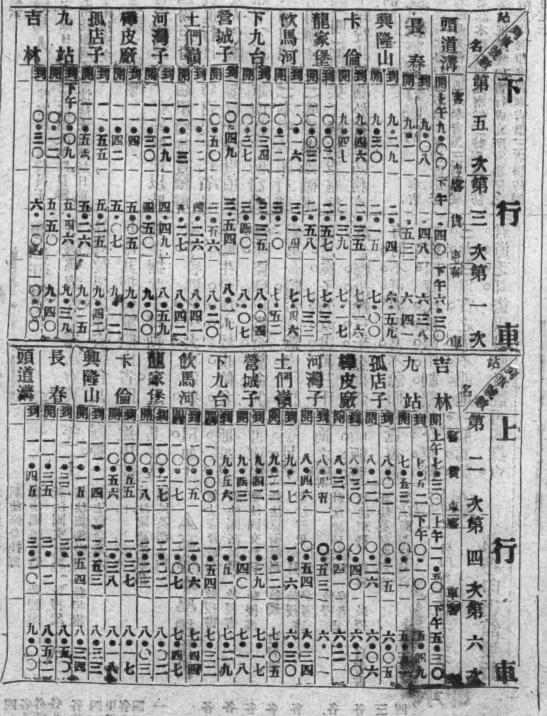


洲五

界

表刻時路鉄長吉

正改日五十月一十年十國民





龙漬尚佳惜 神界人就北 地。需。牛。南。 為 燃。藉 畝。 狀。料。剷。若 東內之般省。各有質苦。省。但。民。 垣慈善家 此 之。份 古。生 地。輩·寒。終 苦。活。耳。質·九 年 故 愈。冬 民。月。有 此。艱。令。并 肅。工 間。 愈 奇。無。 塩。 格 受惠孔 尤 爲可 Ш 狹。收 容貧民 合君子。 子·舉。

起圖 城 新

聞 則

一緒員階 奉省選 會同現因事 趙振東 舉總監督依省 十條之規定 吉林省 頂 辭 職遺 補刻 之多不但 所原先所派之稽察竟至四十吉林縣警察所所長關榮森氏 係其鉅故由十 原先所

傳知經過地方警團妥爲保護 回籍誠恐沿 傳知事案照吉林**省議會議員由**送會轉給各**議**員收執其傳單云 署發給護照以便沿途警察隨 閉會椰居 護以利過行 過行須 員均將 途不 業經填就傳單四 崎合行 至傳單者右 回籍特 函 千 時保 請 仰 接 省爲 張

張巡閱 使前以吉江 回籍之護照 司 濱並與孫吳二 會現己 各員均如 民 現經擇其能勝 令

律分別加

法已其文量請省公署 省農會因 **農會長連任問題** 人生爭執 釋茲磐石農會 俾早日 臨 時會員 任三大者是否合具。 改選云 解釋以発再

在不甘放棄現已運動 包通 客歲炭稅牲畜等項准商包稅之病商累民早爲識 某君出 炭稅又歸商 税之 不准 趙某貪心 而 包 包辦說 日財政廳取消並出財政廳取消並 U 者 大利所 消經深 並公知

陸軍騎兵第一團 混成旅李景林 團均撥歸該 五氏 舒邑紳 十節 制外 四旅 民請兵 總司令節制指揮云 團于 編奉天

外並分舉代表向軍署請撥大軍前一种戶除將家眷遷移城內以週介下 悍匪也 不完勢力單 境較小 満起搶掠情形業詳本報
蘭界秀水甸子及霍洛川 兵無多而警團等槍械 避頃一帶協格 多數

省會第 警察廳 五瓜巡官楊德勝升充己於日昨有他就請假遺缺經警察廳廳長 不足以資養膽於 警界 錢毛物 曹求是警察 聞 一月 察署署員于尚文因 不 日野野市山東 組 包 以 到 現在封 聞 復成店

任者酌留三人其 紊濫之甚 四十餘人 薪以示 該廳已令各縣查照矣 照章改調以符原案而臻 應詳查籍貫如有服 **避道區本籍現在各縣承審員亦** 等審判廳近奉司法部合略 所屬各縣 承審官迴避本道 如請委承審員時均應 法治云云 調

輸無所

出

抑

A.

因判斷不公致兩造不服經年司法部近以各省區民刑訟事 無解決甚至 法部注意訟案 長此以往殊失保 確 司 文矣 聞

城多派人員分赴各鄉抽茶四次計不再展期以便早生 (係自甘放 自報升科选次推 日) 即行截 權利非官家不知 居心觀望不速 宝 期至本 止 告結東並 月底 聞當局 聲報 展

財政廳現准 希轉行知照再所付息銀無論屆成案辦理恐未週知用特通 七年公債通告 內國公債 明云云 局 年短期公

黄粉爲省垣冬季大宗入日 **黄芩 價改售現洋** 一律支付現洋合併聲四 伊始南山黃菸陸顧來省 7中 人工 人工 人工 人工 化 一般 发 商 刻 茶價改售 貨之 百斤須

學於上月末旬赴該校視者 任校長以來對於校務之進行 糊發致軍孫置用具及一 通令各縣一體遵照布告週知矣 生來所肄業由部行知在案茲於 如組織嚴貴研究會學生自治 底以前保梁到局實材公置等 質業應近准財政部全國農工 東密什哈站高國兩等小學拉 入該所肄業學生即請貴<u>廳</u>於本年十二月 第一期招生備章招生廣告請煩查照如有 **腓智所業杯呈奉財政部令治** 間本局為培植專門人才起見 分行各省財政實業開 衛生團亦皆次第 切設備 閥和室已由職位立順著成效 胞即予保沃學 備均己製成餘不遺餘力近如 《自李君雨徵 似寄該所章程 見董身心之 栗由實業

許顾云視

治中植之無曹已多在罷工聲中計生活近 教育部員於泥工中具具府院中有句云部 景皆寒遊付冰洋 無官不為居不輕前之地自古為照為任益貧 於今光烈領此寒中有 員等裁屬寒儒。 所需又斷非不名 不名一錢所的擴寒豐官授祿一本名一錢所的擴寒而衣食住之

吉反對勸學所 長仍烈 **历長李耀相** 題不程途相

近己將一切布置完備並依據 程報告立案日內均開始營 後各種江上 進行而各水院 矣

不足以仰事俯畜以故特聯衛呈 翰臣等近因米珠薪桂薪俸廉 百林縣立通俗教育購演所講 加薪俸以資服務問趙所長以 費除却川資及一 人月加洋八元日請于歐 切費用外 **港鄉鄉** 所請確屬實 員沈變階 請所長准予

億厚廣慶成廣興恒義與合天順 **巡車廣重支ぎまり**西郷な終調査現己到吉如隆聚和萬茂東
西郷弦終調査現己到吉如隆聚和萬茂東
乙一輔毎至冬冷該、地帯商運銷來吉出售 果技胡同設立臨時發育 招收農工講 見開辦農工銀銀行事務局面 習所員 貝所矣 性聚和萬成與 楼等共七

無念母氣而國事然壞 & 母氣而忘 北急不 五分之一國內英豪 以氣自雄清南北神望 面可再母乎 今日中國之所無莫太平太母 。。。。。。。。。。。。。 中國號稱四億民衆 合生負氣者居火氣上 勝氣吐湯而後可言事氣 若在今日惟勿再四壑彼吐氣於大氣中離耶 吾謂必俟被輩 東京中田田田田田本本 無用謂之不爭氣 可見人苟有氣不可不爭 線 話 輯 不佳請國人爭氣吾聞 之不禁悄然世俗饑人 華會中國代多來電腦

一。合。樹。突。不 殊。禮種。鄙。力。乎。知。有。朋 秘。意。特 孫·署。研。沉 接洽孫 接 森 車 中至警署造署長室孫墨 於治孫署長約之往惠日悉局長讀兩畢即與孫思 報告 弟孫謀頓 長。究o默 密, 乞肅,署結。速。執。長 情 形。造 其o價o有 膏。事o 曰o 許o 值。頃o 顧 弗·來·焉 我。余 而主動 轉述 執 有。而。有。孫事。此。不。兩。謀 謙o執 惠 署長將 并示 能。事。怪。言。而 者。 局 署長以電 長途乘汽 爲。 朋 斷o余 爲。可告 日。此。以。孟。断,日。小此事。無。浪。此。此 簿 do

化預

售好大警 廉價發售

元至五十餘元貨存

吉林中華書局謹敢

教訓是戰爭的勝負不專靠兵力的强弱希望這就是歐戰所得的第一個教訓館

如購此券託獲行著之名尤爲美利所在其一事二得之事目

同芳照

護啓

理話一百四十七世

何荒。着。秦至今乃有

虧而在甲的方面一定也要費相當的代價或 是甲勢力壓倒乙勢力在乙的一方面固然吃穀而擴張軍備一定是得不信失第三個数訓 費許多金錢是沒有意思的假使專為國家主東重要的樞紐在經濟方而單是擴張軍備浪

和平的基礎 和平的基礎 的沒落的可提超國家主義發生的先兆不過 主義無賠償主義非掠地主義就是國家主義

决o 手。斷o 走o 耐o 尋o 見o 森 焉。段。事。歧。人。常。憶。面 尋○無○想○報 如。路 局 神。對 長 能。顧 惝 味○意。不一 長· 恍o之o 識o外o事o鑒。 我。此。迷。事。之。乎。奇 一。必。離。鄙 事o兩o絕 談o有o不 人。一 種。怪 快o知。得o為。結o絕。刻 刀o所o此。極o果o此 據 類進快。知。得。為。為數此。因。所。此。極。 安。之。斯。出。報。深。 止o刀o所o此。極o果o此 計,絲。 足告。沈。爲。憑。察 宣o可o之。下o如 而o極o鄙。勞

車署副官長宋壽山

▲晚車

去吉)

車

站

B

簿。頃 人。必。正 判。唐。案。案。惠 勞 話 古長鎮守使參謀長翟景儒 写集六册都十五 年集六册都十五 年第二集明人 約五元 歷陰十 十八册定價七层人一集清人二集 一月中,出版

難白衣覆 有官荒不知循是遷流將復 面 團 ≘.

方僕役奉孫署長命而**爱**送書函於 惠局長也惠**適辦**公見孫署長函亟 展讀之文曰 笼• 謙o囑。辭爲o案o弗。不o績,涉o害o壞o大 吾是所如,擬。撰o為o未o社治o此。多o 二o用o恐o何o委o爲之o奏o會o安o黨o數o 人o隱o才o惠執。蛇o所o而o必o破殊,則o 功。識。喝。辭 之。吾日。二 為 人。隱,才。惠執。今。憂。力。禮 將。壞。不。脅。疑。風。易。從。 無っ勢 事。日。耳。棉。朋 擔。如。必,感。 薄•日。任。何。養•頓。我。俗。易,而。不 職 五 出。癰。生。官。在 以 為。 祝。約。孫署 而。則 長 不職至也 也。癰。生。宜。在 胎、大廳。我。其。機。 患。不。濫。警。行。械o 任o在o止o長 所 便o用o界。動o作 日。謂。然 職, 用。 候。勿。資。不。事。然・爲。聽。權。予。無。耳。 成。過。雅。容。以。此 虺。任。功 干。妨。破

(一)露形

再

南 吉 河 林 民 治 部 分 手術 注 五 法 營 售 發 化學藥品 醫療器 治 利 **賜顧者無任歡迎** 軍服男女大氅兩衣 承做西式禮 精價廉 服便服

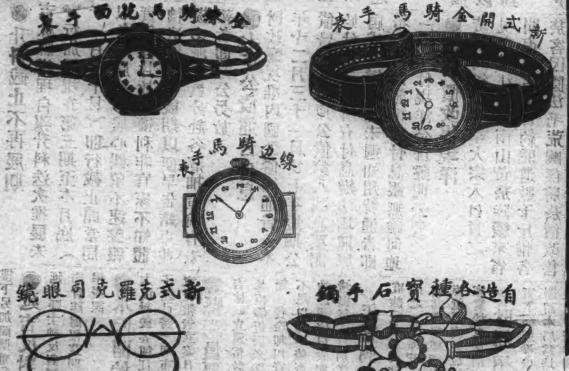
 \mathcal{T}_{i}

東現以

來

此次太平洋會議雖然有許多 爭决不是一國和一 日 平 九世紀狹義的國家主 時候實在有許多雅 泮 称县這師主 的前因後果 戰一定沒有勝 息所以以發明 的單獨明的是以 的單獨明的是以 的單獨明的是以 發展明的是以 發展明的是以 發展明的是以 **凡因尋起根來**

宋旬赴該校視查





曾不 諸般痛苦及試服紅色清導丸一切病状与常鳥 可見量吃口氣穩濁虚火時升到局干將坊巷中四十六號陳韞章先生之來函如左云鄙人因幼年求學用功 受毒精神亦日見充足矣 諸恙紅色清導丸正合是用也請觀江蘇蘇州 狀係疾病頭痛。肝火上升 · 瞻汁不調 · 舌

衛洋色 中一補 生元丸 小、五凡 信美八售八件工作 以小力向上書在上 一所列地址原班郵送可也の対象を関する。



首級

阿高哥

開

地出一百四十七







大瓶大洋三毛五小瓶大洋一毛五 **唐生行有隱**

大號大洋三毛五分小號大洋